

## 船舶事故調査報告書

平成23年7月14日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲 也  
 委員 石川 敏 行  
 委員 根本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成22年7月18日（日） 13時00分ごろ
発生場所	沖縄県 <sup>ぎのわん</sup> 宜野湾市宜野湾港西方のリーフ 宜野湾港北防波堤灯台から真方位255° 1.5海里付近 （概位 北緯26° 16.4′ 東経127° 41.9′）
事故調査の経過	平成22年7月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	ダイビング船 <sup>バッドボーイ</sup> BAD BOY、13トン 290-35972 沖縄、個人所有 14.60m (Lr) × 3.41m × 1.76m、FRP ディーゼル機関、250.07kW、平成2年1月
乗組員等に関する情報	船長 男性 30歳 二級小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成21年7月17日 免許証交付日 平成21年7月17日 （平成26年7月16日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	舵頭材、推進器翼及び推進器軸に曲損
事故の経過	本船は、船長及び甲板員1人が乗り組み、ダイビング客9人を乗せ、係留地である宜野湾港内のマリーナへ向けて航行中、那覇港 <sup>やまと</sup> 倭口北西方付近で大雨に遭ったことから、船長が、荒天避航のために那覇港一文字防波堤に向けて右転し、やがて雨がやんだので、同防波堤の東端付近で牧港第2号灯浮標に向けて左転して北東進した。 船長は、ダイビング客が船酔いしていたので、リーフから100mぐらいの沖をリーフ沿いに航行すれば波が静かだと思い、リーフの白波に向けて再度右転して東進したが、左舷側にリーフが見えてリーフ上を航行していることに気付き、速力を落として約2ノットの惰力で航行中、平成22年7月18日13時00分ごろ、宜野湾港西方のリーフに乗り揚げた。 船長は、船舶所有者に連絡し、ダイビング客は僚船に救助され、乗組員は船固め等を行ったのち救助された。本船は、21日僚船により引き下ろされて、係留地に陸揚げされた。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北、風力 4、視程 約20km 海象：波向 北、潮汐 下げ潮の初期

	波浪注意報が発表されていた。	
その他の事項	<p>本船は、午前及び午後の2回運航し、航行範囲は慶伊瀬島（チービシ）までであった。</p> <p>本船の喫水は、本事故当時、船首約0.8m、船尾約1.5mであった。</p> <p>本船は、操舵室にGPSプロッターを装備していたが、本事故当時、使用していなかった。</p> <p>船長は、リーフ沿いを航行した経験はあまりなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、宜野湾港西方沖を航行中、船長が、リーフ沿いを航行しようとし、リーフの白波に向けて航行した際、リーフの境目に気付かずに航行したことから、リーフに進入して乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、宜野湾港西方沖を航行中、船長が、リーフ沿いを航行しようとし、リーフの白波に向けて航行した際、リーフの境目に気付かずに航行したため、リーフに進入して乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	